平成27年度 進路だより

Frontier Spirit!

J Hirata

第１４号
H28.03.11
文責：﨑田

＜国公立大学・前期入試を終えて…まだ終わっちゃいない!!＞

３月１日(火)、本校第 51 期生の卒業証書授与式が行われました。多くの来賓の皆様の御臨席を賜り、保護者の皆さん、教職員、在校生に祝福された卒業式でした。

式の後半、在校生代表の送辞、それに応える卒業生代表の答辞、式歌・校歌の斉唱…と、式は厳粛な中にも高揚感を以て行われました。そして最後は管弦楽同好会の演奏に合わせて在校生全員が森山直太朗の「桜」を唱う中、卒業生退場…。感動の場面はまだ鮮明に焼き付いています。

ところで、あの卒業式。**卒業生276名の大半はまだ４月以降の進路が決まっていない状態であったことに在校生の皆さんは気づいていたでしょうか。**２月 25 日・26 日に国公立大学の前期試験を受けた者の多くは、ホッとする間もなく気持を切り換えて、３月に入ってから行われる中期・後期試験に備えて受験勉強に向かっていました。**３月１日…卒業の日が「受験の中休み」だったことは、式の翌日以降、多くの卒業生が受験指導を受けるために登校していたことからも察しが付きます。**

10 日(木)の段階で国公立大学前期入試の結果が全て出揃いました。前期試験で栄冠を勝ち取った者がいる一方で、中期の結果やこの後に控える後期試験に勝負を賭ける者もいます。まだ入試は続いています。

(今号から進路だよりを直接配付する対象は１・２年生ですが、卒業生がＨＰで閲覧してくれていることを期待して)**後期試験に臨む者に一言。「望みがある限り、まだ終わっちゃいない!!」…健闘を祈っています。**

18 歳…来たる年度の春を間近に控えたこの時期、「大学入試」は険しく辛い道のりかも知れません。でも大学入試で得るものは大きいと思います。いつか必ず**「あのときがあったから、今の私がいる」と言える日が来ます。**４年後、10 年後、20 年後…、綺麗な大きい「花」を咲かせるために頑張ってください。

次回の進路だより「Frontier Spirit」第 14 号(３月 25 日発行予定)は、今年度最終号になりますが、本校第 51 期生の進路状況を「速報」として紹介したいと思います。

＜3・11…あの日から5年。今、あなたは…＞

平成 23 年３月 11 日 14 時 46 分…あの日、あのときから５年が経ちます。

５年前、これを読んでいる高校１・２年生は当時、小学校５・６年生だったのですね。あの日、あのとき、皆さんは何をしていましたか。

…私は当時、まだ前任校で勤務していました。**あの日はちょうど山梨県の公立高校合格発表日**…朝から合格発表に伴う作業に追われていた私が、合格発表直後から始まった開示請求の対応をようやく終えて、自分の席に戻ったのが２時半過ぎ。急いで昼食を済ませ、「さぁ、仕事再開…」とパソコンに向かったとき、視線が揺らぎ、言いようのない不快感…一瞬の間を置いて同僚が「地震だ」と叫びました。

急いで職員室のテレビが付けられ、東北地方を震源にした大地震であったことを知りました。その後、テレビで様子をうかがっていると、やがて津波注意報は警報へ。間もなく目を疑う実況映像…。

あの日、あのときから５年が経ちました。

計画停電…などという言葉が懐かしく響くようになった感じもしますが、５年間…、いまだに時間が止まったままの人々がいることを思うと胸が痛みます。

「忘れない」ということが大切です。５年後の今日、山梨県ではあの日と同じように高校の合格発表が行われました。皆さんは 14 時 46 分を６校時と７校時の合間に迎えます。**たわいない友人とのおしゃべりができる、ごく普通の時間がどれだけ貴重なものかを実感**する機会であっても良いと思います。市から黙祷を呼びかける防災無線が流れるとき、我々は謹んで、その時間を迎えるべきでしょう。

今日、正面玄関には弔旗が掲げられています。犠牲になった方々に、心から哀悼の意を表します。

＜南高生に読んでもらいたい一冊＞

今回紹介するのは 18 世紀後半から 19 世紀にかけて活躍したヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ著（高橋義孝訳）による書簡体小説『若きウェルテルの悩み』（新潮文庫、2014）です。新潮文庫では 1951（昭和 26）年に初版が発行されて以来、2014（平成 26）年の段階で 122 刷を数える名作です。他にも岩波文庫では竹山道雄訳版（1978）、ちくま文庫では柴田翔訳版（2002）が刊行されています。

教養主義が浸透していたころの日本の大学では、この書を手にとって何度も読みふけった人がいたと聞きます（恐らく原書だと思います…）。因みに、宿泊学習会の折にチューターを務めてくれた学生の一人に、この本のことを話すと、**「先輩から読むように言われた」という返答**を聞き、安心しました。

主人公ウェルテルがシャルロッテ（愛称：ロッテ）に強烈な恋心を抱き、やがて叶わぬ恋に絶望する中で自らを絶つ…という物語です。発刊当初は主人公の在り方が社会現象になったとも聞きますが、この作品の深層には“青春の危機からの脱出”というメッセージが込められているように感じます。

『若きウェルテルの悩み』は新潮文庫版以外にも出版されていることは前述しましたが、前号で紹介したアランの『幸福論』と同様に、各版を読み比べる生徒がいると嬉しく思います。また、第三者の言葉を借りた翻訳版では本意が分からない…と原書に手を伸ばしてくれる者がいてくれれば、それが本来の「学ぶ」姿なのでしょうし、本当に「教養」を身につける一歩になるのだと思います。

＜進路指導部から発信する「お薦め書籍一覧」＞

11 月に「進路指導部が発信する『お薦め書籍』一覧」をＡ４判３枚で配付したのを覚えていますか。あれから３ヶ月が過ぎましたが、何冊か、手にとって読んだ人はいるでしょうか。「僕は（私は）、〇〇冊、買って読んだ」と言ってくれる人が一人でも多くいることを期待しています。

そのような期待感の中、今回、**「進路指導部が発信する『お薦め書籍』一覧part２」を配付**したいと考えています。part ２では進路指導部の先生方 12 名による“お薦め本”を用意しました。この進路だよりで「南高生に読んでもらいたい一冊」コーナーに紹介した本も含めて載せてあります。後日、各クラスに配付したいと考えています。

前回配付した part １と合わせて、ぜひ、手にとって読んでみてください。最後の一ページを読み終えるとき、あなたの中に“将来、光り輝くための”原石がそっと備わっているはずです。

かつて同僚の教員が**「心の琴線に触れるような名作は若いうちに読むべき」「年を取っても本は読めるが、若い時分の“あの感情”は残念ながら呼び起こせない」**と言っていたことがあります。

以前、「高校生のころまで読書らしい読書はしたことがなかった」（進路だより「Frontier Spirit」第４号）と白状したことがありますが、そんな私は、年を追うごとに教養のなさが骨身に染みますし、そればかりか、もしかすると、あの同僚が言っていた“あの感情”も実は分ってないのかも…と思うときがあります。

本の良さやその意味が本当に理解できるのは数十年先…と最近、分かってきました。やはり若いころに培うモノは、後々大きな意味を持つことになるでしょう。

即効性のある読み物も、時として必要かも知れませんが、やはり**読み終わった後に「はじまる」読み物を大切にしたい**ものです。今年度の進路だよりでは、一貫して皆さんに“読書への窓口”を提供してきたつもりですが、改めて、一人でも多く、読書に親しむ教養のある人に育ってほしいと思っています。

山梨県立甲府南高等学校
進　路　指　導　部

URL　http://www.kofuminami-h.ed.jp
E-mail　shinro@kofuminami-h.ed.jp